

# Berlin Report

October 2020

## CONTENTS

\* Project 1: Jüdisches Museum/ Museum

## 1. Jüdisches Museum

### Project Overview

Daniel Libeskind によって建てられたユダヤ博物館の常設展が、今夏大規模なリニューアルを終えた。

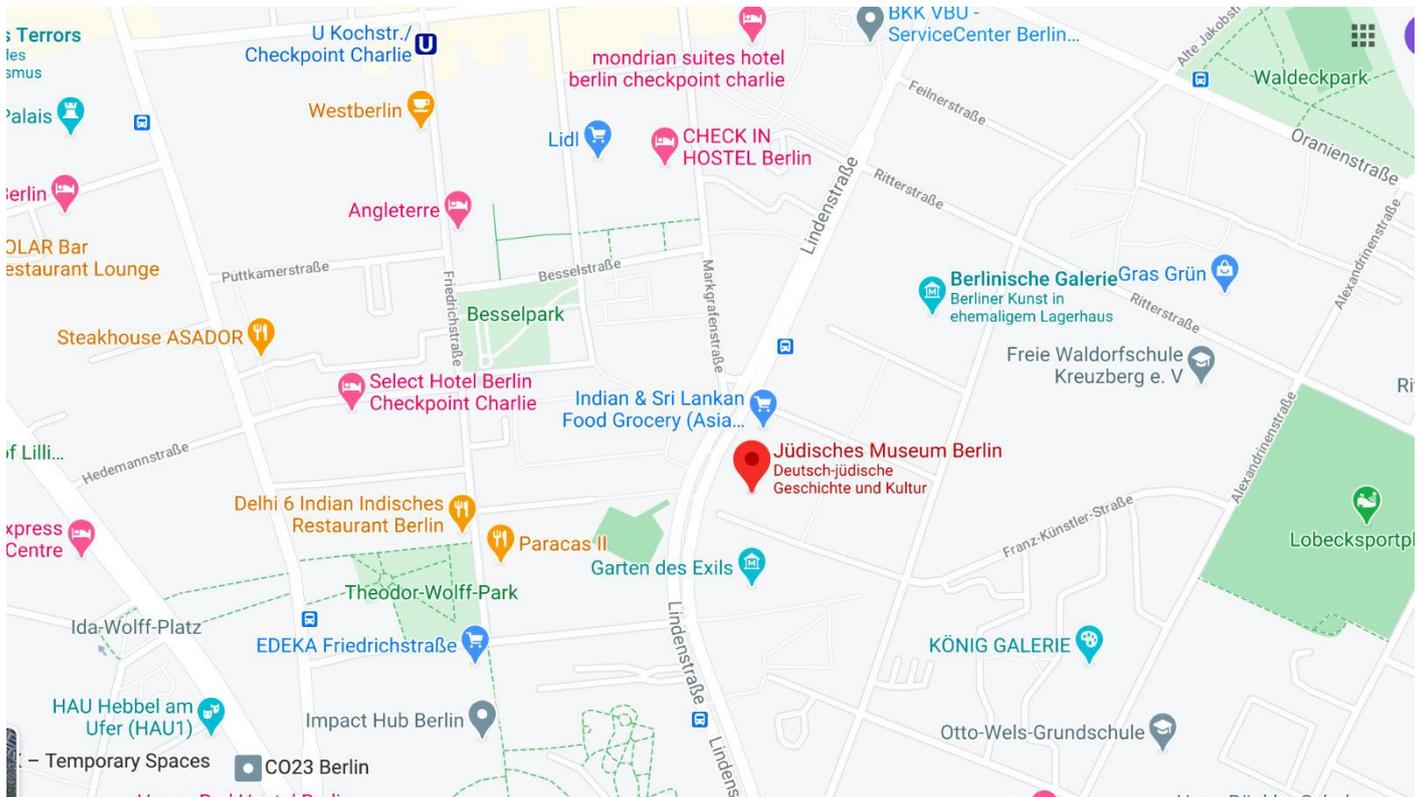
ドイツ国内の数多くの展覧会を手がけるデザインオフィス「chezweitz」が担当した芸術的なセノグラフィーは、リベスキンド建築の脱構築的なアプローチ、独特な世界観を増幅することに成功していると、高い評価を得ている。常設展の大きなテーマは、非ユダヤ社会に対するユダヤ人の関係だ。ヨーロッパやドイツにおけるユダヤ人の歴史、キリスト教とユダヤ教の比較と多彩な社会の共生について、そして差別について。

リベスキンド建築の特徴である中央の「ヴォイド」空間や、金属のファサードに鋭く切れ込みを入れたような窓が、同じような素材や形で展覧会場の中で反復され、強調されていく。深く、重苦しいテーマを扱いながら、明るい色調のセノグラフィーは情に訴えることなく、ドライな印象を受ける。しかし来場者は、時系列を追って展覧会を見ていくうちに、リベスキンド建築が表現する深い絶望や苦しみ、圧迫感などを追体験していくという仕組みだ。膨大な資料の中に点在する現代アーティストの作品もアクセントを添えている。

### Project Details

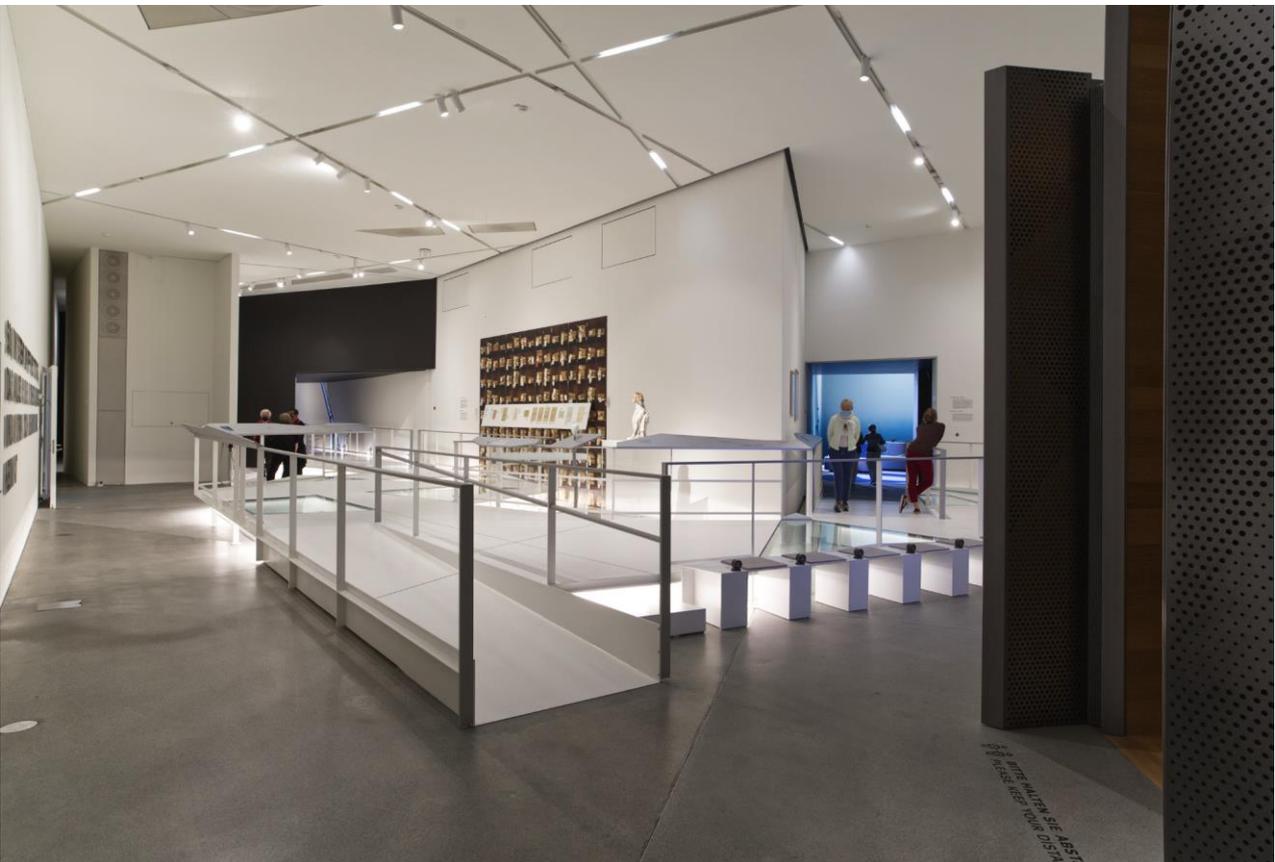
1. Type of Business : Museum, permanent exhibition
2. Open Date: 23/08/2020
3. Location: Lindenstr.9-14, 10969 Berlin
4. Size: 3500 m2
5. Szenografie: chezweitz GmbH, Berlin Hella Rolfes Architekten BDA, Urs Schreiner (Lightdesign)

### LocationMap





鋭角な星形が何度も何度も繰り返される。これはユダヤ教の宗教的な行事に使われるオブジェなどを解説する展示ケース。



ファサードを走る鋭角の窓が、展示空間では天井の照明や情報用の説明板の配置などで何度も繰り返される。



經典をテーマにしたコーナーは、巻物を思わせる弧を描く展示パネルを使って。



インタビュー映像の上映空間。  
鋭角な星モチーフが素材を変えて現れる。



展覧会は来場者が望みを書く希望の木から始まる。  
打ち放しのコンクリートが「ヴォイド」空間につながっていく。



通るときにカラフルな金属のチェーンが揺れ、さらさらと音を鳴らす不思議な空間。



ファサードの斜めに走る窓の形や青白く光る金属の質感に呼応するように作られたオーディトリウム（視聴覚室）。丸みを帯びたソファが、開口部や照明の鋭さを引き立てる。



戦後ドイツにおけるユダヤ人の扱いの変遷を時系列で展示する空間。

うねるように情報パネルがダイナミックに空間を横切り、現在へと続いていく。

展示パネルは意図的に水平や並行に置かれておらず、空間に独特のリズム感が感じられる。



リベスキンド建築のハイライトでもある「ヴォイド」空間。建築の中央に設置された大きな吹き抜けだ。  
上から差し込む光は決して下まで届くことはない。第二次世界大戦中のユダヤ人大虐殺ホロコーストをテーマとしている。